

一八六八	慶応四年	1月	鳥羽・伏見の戦
		3月	西郷隆盛、山岡鉄舟と駿府会談 五箇条の御誓文が発表
			大総督宮は駿府の富豪に駿府滞陣の調達金 五〇〇〇両を命じた
		4月	江戸城の無血明け渡し
		5月	徳川家達公が駿河府中藩主となる
		7月	徳川慶喜公が水戸から宝台院へ
	明治元年	9月	年号が明治となる 官軍が清水港の咸臨丸を攻撃
		10月	府中(静岡)学問所が開校
		11月	渋沢栄一が帰国
一八六九	明治二年	1月	渋沢栄一が紺屋町の元代官屋敷(現在の浮月楼の地) に商法会所を開設
		6月	版籍奉還 徳川家達公が藩知事となる 府中を静岡と改称
		7月	旧幕臣、牧之原の開拓を開始
		8月	商法会所を「常平倉」と改称 常平倉は常慶町、教覚寺へ移る
		10月	徳川慶喜公は謹慎を許され、元代官屋敷に移る
		12月	渋沢栄一が静岡を去り、大蔵省に奉職 この頃、人力車の営業が開始

3 浮月楼

明治維新を欧州で知り、帰国した渋沢栄一は1868年12月19日に駿府に到着し、翌々日の夕方、宝台院で慶喜公に拝謁しました。

渋沢は、府中藩の財政上の破産を案じ、新政府から拝借した53万両と西洋で行われている共力合本法(個人の財産を集めて大きな事業の元手にすること)を合わせてひとつの商會を結成し、モノの売買や金銭の貸借を取り扱うことを提案。この着想を実現する方向で藩の評議がまとまると、1869年1月16日、紺屋町の元代官屋敷(現在の浮月楼)に「商法会所」を設立し、事業を始めました。

同年10月、渋沢は謹慎が解けた慶喜公に屋敷を渡し、教覚寺に移ります。元代官屋敷には池泉回遊式庭園が作られ、慶喜公は西草深の新邸に転居されるまで20年間住まわれました。



左:慶喜公ゆかりの庭。 右:慶喜公の書「万事、花の下に酔うにしくはなく、百年、夢の中に 狂うに似たり」

勝海舟



1823(文政6)~1899(明治32)
旗本・勝小吉の長男。蘭学を学んで頭角を

現し、ペリー来航に際して提出した海防意見書で注目された。1855年、海軍伝習生監督として長崎に赴き、オランダ海軍の伝習を受け、1860年、咸臨丸艦長として太平洋を横断して渡米。1862年、神戸海軍操練所で幕府海軍を養成し、坂本龍馬らを育てた。1868年の幕府瓦解に際しては、江戸城無血開城、徳川家救済、慶喜公助命に努力。徳川家の駿府移住に従い、門屋に家族とともに居住。のち新政府に出仕した。

山岡鉄舟



1836(天保7)~1888(明治21)
飛騨郡代・小野朝右衛門の子として江戸に

生まれる。1855年、槍の師である山岡家を嗣ぐ。千葉周作に剣を学び、無刀流を案出。1868年、將軍慶喜公が上野に謹慎すると精銳隊頭となるが、勝海舟の委嘱により駿府滞陣中の西郷隆盛と会見し、江戸城無血開城の交渉を行った。徳川家の駿府移住に従い、静岡藩の権大参事となる。清水次郎長と親交を結び、久能寺を復興し鉄舟寺とした。のちに新政府に出仕し、茨城県参事等を経て侍従となり、明治天皇の側近となった。